



「希望」 成人学校(水墨画)講師 宮澤 祐司先生画

謹んで新春のお慶びを
申し上げます

報 安 茂 里

発行所
長野市立安茂里公民館
電話 226-4059
発行人 多田井 幸視
発行月 5.7.9.11.1.3月
(株) 信光社

安茂里地区 世帯数と人口 (12月1日現在)

世帯数	9,063戸
総人口	21,250人
男	10,169人
女	11,081人

平成30(2018)年の千支は、「戌戌(つちのえいぬ)」今年一年が皆様にとって良い年となりますように、ご祈念申し上げます。

60年前の戌戌の年であった昭和33(1958)年を見ると、東京タワーが完成し皇太子・美智子様が婚約、相撲の栃若時代の全盛、野球は長嶋選手が新人王に輝くなど、華やかな年であった。終戦後の日本社会に高度経済成長の波が押し寄せてきた時期であり、千支の「戌」が「茂る」意味もあることから、まさに成長・発展の時であった。さて還暦を迎えた「戌戌」の今年は、どんな年となるのだろうか。

犬といえば「桃太郎」や「花咲かじいさん」などの昔話、また渋谷駅前で7年間も

主人の帰りを待ち続けた「忠犬ハチ公」の例や猟犬、番犬、盲導犬など、古くから人間との付き合いが深く、忠誠心の強い動物といわれる。

市では、「犬と猫の譲渡会」を開いているが、市保健所動物愛護センターによると28年度に85頭の犬が収容され、内70頭は飼い主が見つかり返還された。残る13頭が希望者に譲渡されたという。あと2頭については病死等により、やむなく処分された。

貰われていった犬は、子供の手が離れたからとか家族の要望から飼い始める場合が多く、愛犬として貰われていった先で大事に飼われているという。言葉を言えない犬や猫にとっては飼い主が頼りなもので、人と動物との触れ合いを大切にしつつ、全ての命あるものが生き生きと日々を送れる一年であることを願う。職員によると、貰われていった犬たちは保護したばかりの時に比べ幸せそうで、顔の表情までも穏やかになるという。

戌年の今年は、動物愛護の視点からペットとしてかわいがられるだけでなく、夜中の鳴き声や糞の始末、散歩中の放し飼いや、しっかりとしつけられた愛犬と飼い主や隣人との共存できる年としたいものだ。

杏 仁

我が家は例年平核無柿で干し柿を作るが、昨秋はそれができなかった。たわなに実るまではよかったが、収穫寸前の柿全部が枝にぶら下がったまま熟柿となつてしまったため、こんな年は初めてだった。▼元旦に家族そろって福茶を飲み雑煮を食べ、新年を祝う折、おせち料理にかち栗や干し柿を添え、「仕事を繰り(栗)回し良く、お金をかき(柿)込め」と縁起を担ぎ食べるが、今春は買ってきて間に合わせる事となった。こうして正月行事もだんだん簡略化され、門松・注連縄、おせち料理や餅も買ってきて済ませる時代だ。▼せめて自家製の干し柿で福茶が飲めたらと思う反面、「熟す」ことを良しとするプ

ラス効果のこともある。果物が「熟す」ように、「機が熟す」とか「熟慮」「熟考」といった、十分に深く考えろという使い方もある。▼戌年の今年は国内外で起こる消費税や憲法問題、国際紛争や経済問題等々に対し、性急な対応でなく果物が「熟す」と同様、今年一年実り多く熟した年となることを期待したい。

「福茶して 先づ一笑や 雨静か」(村上鬼城)

1月3日(水)
の成人式
を迎え

夢に向かって 新たな世界を切り開け！

二十歳を迎えて



小市南団地
大矢 理奈

私は無事に二十歳になり、成人式を、迎えることが出来ました。成人式を迎えるにあたり、まず初めに思った事は親への感謝です。仕事などで忙しい時も毎日お弁当を作ってくれたり、私が行きたいといった学校にも行かせてくれました。一番近くで支えてくれて感謝しています。そして私が高校生の時、自転車のチェーンが外れてしまい、困っていたら忙しいにも関わらず、地域の方が手を貸してくれました。

今までたくさんの方々に支えられてきたので、今後は私が支えていく番です。困っている人がいたら、声をかけてあげたいです。

まだ学生ですが、これから色々な経験をして知識を増や

し、社会に貢献出来る大人になれるよう、頑張っていくと思います。

二十歳を迎えて



小市
柳澤 海月

いつまでも少年のつもりが、今年で二十歳を迎え、いつの間にか大人の仲間入りをすることになりました。ここまで来られたのも、ひとえにお世話になった皆様のおかげと、感謝申し上げます。振り返ればここまであっという間でしたが、充実した二十年間でした。中学生の頃、授業中騒いでいたとき、先生に両足を地面につけると言われたことがありました。今日までは親や先生が間違えたことは叱ってくれたし、道標を示してくれていました。これからは自分の道は自分で歩いていかなければなりません。今まで道標をくれた人がいなくなると

二十歳になって



小柴見
戸津 ひかり

ようやく成人式を迎えることができ嬉しく思います。考えてみればあつという間の二十年ですが、この二十年間を振り返って思うことは、親に支えられてここまでこれたと感じることです。家族のために働き、ご飯を作ってくれたり、私が落ち込んでいた時には言葉をかけてくれたり、時にはわがままを聞いてくれたり、これまで母にたくさん支えられてきました。その支えがなければ部活や実習など辛いことを乗り越えることは出来ませんでした。そんな母に感謝を伝えたいです。そして成人を迎えた今、これからは親元を離れ一人暮らしです。その中で親の有り難みを感じることが多々あると思います

いうプレッシャーを感じながら、自分の足で進む意思と大人になった自覚を持ち、責任ある行動を心掛けていきたいと思っています。

二十歳の決意



小市
山田 康晴

私は成人を迎え、大人の仲間入りを果たしました。これまで支えてくれた家族はもちろんのこと、地域の皆様、今までお世話になった方々、友人には感謝の念に堪えません。私自身まだ一人前と言われるまでには程遠く、成人としての自覚に欠けておりますが、社会を構成する一員として、これからは、自分自身の判断力と実行力を自己の責任において行動しなければなりません。そして、これから成人を迎える方々のお手本となるような行動を心がけ、社会や地域に貢献できるような人間になりたいと思います。成人の日を期に、常に志を高く掲げ、地域に必要とされる人間を目指して自己の向上に努めて参りたいと決意を新たにしたいところです。

が、今までの一つ一つの支えに感謝して、社会人になり今度は誰かを支える人になりたいです。

成人の抱負



小市南団地
木村 奈緒

無事成人を迎えることができ、大変嬉しく思います。これまでの二十年、たくさんの方に出会い、仲間とともに成長してきました。二十歳になり、大人の仲間入りをした今、社会の一員として、するべきことはなんだろうと思いましたが、私は「社会の一員として、見本となるよう日々勉強することだ」と思いました。

私たちは今まで両親や、たくさんの方々に支えられて生きてきました。皆、私たちを正しい方向へ導き、社会の一員としての見本となってくれました。

私は今、高校卒業後就職し、社会の一員として働いています。そこでは日々社会に立つ上での責任感などを教わっています。

二十歳になった今、これからは私たちが見本となり、今まで導いてくれた方たちのように、しっかりと大人としての見本となるよう日々勉強していきます。



笹本正治 先生

第二十六回 杏の里文化講演会 「水害・土石流災害と牛・龍の伝説」

長野県立歴史館 館長 笹本正治氏

平成 29 年度杏の里文化講演会を 11 月 26 日(日)に、安茂里地区住民自治協議会と安茂里公民館との共催で開催した。講師に長野県立歴史館館長・信州大学名誉教授の笹本正治先生をお願いして、自然災害に対応する住民の知恵のあり方についてお話いただいた。

笹本先生は歴史・民俗学に造詣が深く、先人の知恵を今に活かすためのヒントを多数の資料を提示されつつ熱く語られた。

近年集中豪雨による土石流や河川の氾濫、道路決壊、土砂崩れなどの災害が安茂里地区内でも頻繁に発生して避難勧告まで出る状況の中、先人が伝えてきた水に対する地名や伝説、牛や龍の伝承を早速

「講演を聞いて」

園沖防災隊 大日方紀夫

「災害文化」聞き慣れない言葉ですが、講演を聞き、先人達が今を生きる私達に残してくれた災害に関する大切なメッセージであることが分かりました。先人達が経験した災害の苦難を地名や沢の名称伝説として残してくれていたのです。改めて地名や名称に関心を持ち、そこに込められたメッセージを紐解く事も大切かと思いました。ここ安茂里は東に裾花川、南に犀川、北には信濃川断層帯を抱える地域です。大雨が降れば避難勧告が発令される土地でもあります。行政に頼るのではなく地域の実情に沿った形で自分達は防災と向き合わなければと思います。

学校紹介③

裾花中学校

地域と共に歩む学校

現在の裾花中学校は、26 級に 745 名の生徒が在籍し、長野市で有数な大規模校です。来年は創立六〇周年を迎え、文化祭は開校以来「星花祭」と親しまれています。星花は、昭和 34 年の創立年に制定された校章「星花章」から位置付けています。そして現在でも、めざす学校の姿を「生徒と教師が共に星花(理想と自己実現)」を求めて学ぶ、誇り高き「裾花中学」と掲げ、伝統は脈々と受け継がれています。

「一人では参加しにくい」と感じていました。そこで 19 の部活を有する本校は、コミュニティ・スクールの活動の一つとして部活動単位で地域の行事等に参加することを始めました。またこの地域活動は、部活でのスポーツ・文化活動以外の方々と係わることで、さらに良好な仲間づくりやチーム力の向上を期待しています。

具体的な活動としては、地域の防災訓練や清掃、認知症サポーター講座への参加、ア

たいと考えています。最後にご報告です。七月上旬から始めた北体育館の改修工事が終了し、きれいな体育館に生まれ変わりました。近隣の地域の皆様、スポーツ団体の皆様等、長期間にわたってご不便をおかけしました。皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。今後も、様々な課題に対して地域の皆様と知恵を出し合いながら、共に歩み、信頼される学校をめざしていきます。

モイレフェスタのボランティア等々、二年間で全ての部活が地域の行事等に参加することができました。地域の方々には「中学生が参加してくれよううれしい」「中学生から元気をもらった」と喜ばれ、参加した生徒は地域のために役に立ったという満足感が高まり、登下校で雪かきに困っている方の手伝いやご老人が横断歩道を渡るときの手助けなど、個人的にも地域に貢献する生徒が増えてきています。このような WIN・WIN の関係をさらに創り出していき



安茂里地区公園の清掃 ～小学生もいっしょに～

公民館運営委員会から③ 出会いと交流の場

委員 浅井 圭美



年を重ねて大人になるほどに、「うれしい」「楽しい」「新鮮な感動が少なくなるように感じます。」

日々のことに追われ、自分でも知らず知らず、まるで電球にすがつて灯りがくすんだように気持ちが元気をなくしているときがあります。

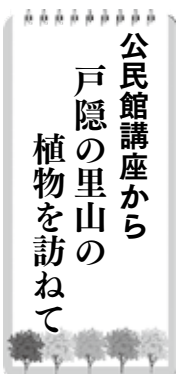
そんなとき、出かけた先で、思わず、知り合いや友達に出会い、お互いの何でもない近況を話し合う中で笑顔が生まれ、ちょっとした気分になり、元気になることがあります。気持ちにたまっていたすすようなものがキュッと磨かれてリフレッシュされるようです。人と人の交流には、きつと元気になる効果があるのだと思います。

アモーレフェスタに出かけるようになったのは3年前からです。長女の合唱の発表があることがきっかけでした。

会場にはたくさんの方が集まり、合唱の発表以外にも、たくさんの展示や催しがあつて、日頃はなかなか経験できない新鮮な気持ちになりました。子どもたちは、友達とも会えたりして楽しそうに過ごします。

公民館は、そうした出会いと交流の場です。今、安茂里地区に暮らしているお子さんが成長して、やがて安茂里地区をなう頃も、公民館が、さまざまな世代の人たちがたくさん集まって、和気あいあいと交流して楽しめる場所であつてほしいと願います。

公民館講座から 戸隠の里山の植物を訪ねて



安茂里公民館主催の講座も、暮れまでにおおかた終了した。開講したものは野鳥・植物・歴史・民俗・経済・企業巡り・時事・古文書・幼児の遊び・歌唱・燻製等々多彩な分野に渡り、参加申し込み時にすぐ受付終了となるものもあつたりで、各講座への関心の高さをうかがわせた。

秋に行った戸隠の植物観察

では、地域の人々と里山の植物との関係をテーマに見て回り、戸隠の竹細工原料である根曲がり竹の採集や宿坊の屋根材料に使う茅刈り場についても見学した。「普段は見られない講座に参加して、戸隠の自然とそれを活かした人々の生活との関わりを知り、伝統を大切にす地元の方々の心意気に感動した。」等、多くの感想が寄せられた。

来年度も新たな講座を企画中なので楽しみにしていただき、多くの皆様のご参加をお待ちしています。



〈お詫びと訂正〉

前号、安茂里の獅子舞③で、宮大工兼彫師の宮寄儀作は山寄儀作ですので、お詫びし訂正します。

豊かな生活育てましよう

安茂里公民館226-4059

生活文化講座

◎楽しく歌おう愛唱歌③

日時 3月2日(金)
午後1時30分～
定員 100名
申込 安茂里地区の方
2月2日(金)～
その他地区の方
2月9日(金)～

杏の里教室

◎時代の見方・考え方②

日時 2月13日(火)
午後1時30分～
申込 2月1日(木)～
定員 30名

平成29年度 安茂里地区 人権を考える住民の集い

日時 1月13日(土)
午後2時～
場所 安茂里公民館
講師 植生中学校 校長 丑丸 明英 先生
テーマ「語り合い 気づこう人権」

※皆様のご参加お待ちしております。お詫びし訂正します。

平成30年度 安茂里公民館利用者説明会のご案内

日時 2月9日(金) 午後2時～
場所 安茂里公民館 2階集会室(ホール)

平成30年度に安茂里公民館および小市分室の利用を希望しているサークルの代表の方はご出席ください。

第42回 囲碁将棋大会について (地区対抗戦)

日時 2月4日(日)
受付 午前8時30分～
開会 午前9時～
場所 安茂里公民館
昼食 600円
(参加者負担)

申し込み期限は

1月19日(金)まで

※各地区公民館長がとりまとめているのでお問い合わせください。